



京都市では、様々な産業が相互にきめ細かく支えあう「産業連関都市」の実現を目指して、21世紀の産業振興ビジョンである「京都市スーパーテクノシティ構想」を平成14年3月に策定し、その主要な施策の一つに「産学公の連携促進～大学発ベンチャーの育成～」を掲げ、地域クラスターの形成に向けた事業を推進して参りました。

今日、私たちの社会は、多種多様な技術開発により、人々の活動領域が大きく広がり続けている一方、経済のグローバル化や少子高齢化の進展による人口構造の変化、更には環境問題をはじめとする地球規模の課題などに直面しております。

このような状況の中、国においては、平成18年3月に第3期科学技術基本計画が策定されたところであり、科学技術は、これらの課題解決に貢献するとともに、社会の活力を維持し、質の高い豊かな生活を実現する源になることが期待されています。

京都市は、1200余年の歴史が誇る伝統産業から世界水準の先端産業に至るまで、多彩な産業に息づく「技」が共存する「ものづくり都市」であり、また、「知」の源泉である創造性に富んだ大学が集積する「大学のまち」であります。

こうした京都の特性を最大限に生かし、「京都市スーパーテクノシティ構想」を一層推進するための行動計画として、この度、京都市産業科学技術振興計画を策定致しました。

本計画では、科学技術の基盤を支えるものは「ひと」とあるとの観点の下、①「知」と「技」が活発に交流する場である「イノベーションを誘発する環境づくり～地域クラスターの形成～」と、②「知」を生み出し「技」として磨き上げる「イノベーションを創発する担い手づくり」に重点を置き、競争力ある新事業の創出や次代を担う人材育成を通して、絶えざる技術革新を生み出す仕組み～革新への挑戦を続ける科学技術都市～の構築を目指しております。

今後は、関係機関並びに市民の皆様との揺るぎないパートナーシップの下、本計画を着実に推進し、「安らぎ」と「華やき」に満ちた京都を実現して参りますので、より一層の御協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定に当たり貴重な御意見をお寄せくださった市民の皆様をはじめ、御提言、御意見を頂いた「京都市産業科学技術振興計画策定委員会」委員及びスーパーアドバイザーの皆様には深く感謝を申し上げます。

京都市長

柿本頼業